

日本香粧品学会が 今後目指していくべきもの

川島 眞

東京女子医科大学皮膚科教授

石河 晃

東邦大学医学部皮膚科教授

日本香粧品学会の活性化

川島 2017年6月から、石河先生に日本香粧品学会理事長を引き継ぎました。本学会は、香粧品およびその関連物質に関する種々の医学的および科学的問題について討論する場として1976年に設立され(当時の名称は「日本香粧品科学会」)、以降、化粧品の安全性の問題、皮膚の構造と機能解析、化粧品の新規効能取得を目指した「化粧品機能評価法ガイドライン」の策定など、幅広い活動を行ってきました。会員は化粧品会社の研究者と皮膚科医に加えて、薬学の研究者や大学院生、官僚出身者などから構成され、大変ユニークな学会です。会員のうち皮膚科医は何名ぐらいでしょうか。

石河 2018年2月現在、会員数は約760名ですが、そのうち皮膚科医は120名弱在籍しています。

川島 まだまだ全体に占める皮膚科医の割合は少ないですね。2017年の大会は、これまでの平日(木、金

曜)開催から土曜を含めた日程(金、土曜)に変更し、皮膚科医も参加しやすくなりましたので、皮膚科医のさらなる会員数増加が期待されます。ほかに、皮膚科医の参加を促すための施策はありますか。

石河 日本美容皮膚科学会が美容皮膚科分野の実臨床を中心に取り上げているのに対し、日本香粧品学会は化粧品の基礎研究が中心ですので、今後は臨床より研究に重点を置いて活動している皮膚科医にも参加してもらいたいと考えています。

川島 バリア機能やメラニンについて研究している皮膚科医もいますので、そのような研究者に参加してもらえるといいですね。また、学生に対して会費の割引を検討しているそうですね。

石河 日本香粧品学会では大学院生が研究成果を発表する機会も多いですが、発表者は学会の会員に限る、という会則があるため、学生の間

は「学生会員」として会費を割引き、社会人になったら正会員になっていただくと考えています。今まで以上に学生が積極的に研究成果を発表する場になれば、学会の活性化が期待できると考えています。

川島 とくに薬学部の学生や大学院生は、かなり早い段階から自分の将来像を見据えており、化粧品にかかわる仕事を志望する人もたくさんいます。学生に対して門戸を広げることは、学会の活性化につながるだけでなく、優秀な研究者を育てるシステムの確立にも有効だと思います。ぜひ実現してください。

化粧品における 安全性の担保と 基準整備

川島 日本香粧品学会にまつわる近年の出来事を振り返ると、2006年の「化粧品機能評価法ガイドライ